



カレィ



かれんと いんぷおめ〜しょん

2006.12.15 発行：No.55
TEL 03-3985-2628
立教大学図書館

レファレンス・サービスを使おう — 図書館長からのお勧め —

図書館長 青木 康

今年5月末に立教大学の図書館長になった青木と申します。図書館ともども、どうぞよろしくお願ひします。

思えば、私はずっと本が好きで、小学校時代にいた将来の夢のひとつは、本にいつでも触れていられる本屋さんになることでした。その頃は、図書館というとちょっと遠い存在でしたから、本がたくさん並んでいる書店、なかでも都心の大型書店がそのかわりになっていたようです。そう考えると、図書館長就任は、半世紀近く経ってこどもの時の夢がかなったというべきかもしれません。

大学の3年生の頃から本格的に図書館、特に通っていた大学の総合図書館のお世話になり始めました。私の専攻は18世紀イギリス史でしたから、出版されて200年、あるいは250年といった古い洋書を書庫から出してもらい、閲覧室で読んでいるうちに一日が終わるといった生活を繰り返しました。そんなわけで、私は図書館のそれなりにヘビーユーザーだったのですが、今思い返してみると、かなり独りよがりの使い方をしていて、自分が通う図書館の実力を十分には引き出せていなかったように思います。

今、図書館長になってみますと、利用者として図書館を訪れていた時にはあまり見えていなかったのですが、多くのスタッフが利用者へのレファレンス・サービスのために働いていることがよく分かります。何か調べなければいけないことがある時に、どんな文献を参照すべきか、また、文献名は分かっているが、どうすればその文献を利用できるかなど、利用者からの質問に答えるサービスです。学生時代の私は確かに図書館に通いましたが、もったいないことに、こうしたサービスをあまり利用していませんでした。皆さんには、もっと気軽にレファレンス・サービスを使っただけきたいと思います。皆さんから質問していただくことで、私たち図書館の側も利用者のニーズを直接的に知り、それを購入図書選定をはじめとする図書館の運営にいかしていくことができます。

また、現在の図書館は、みなさんが図書館を訪れてくれるのを待っているばかりではありません。みなさんが必要とする情報はどのようなものか、その情報を効率的・効果的に探しだし、情報を正しく評価し活用する力、いわゆる「情報リテラシー」を身につけてもらうために、授業内情報検索講習会をはじめ、さまざまなプログラムを展開しています。

皆様のご利用をお待ちしています。

目次

レファレンス・サービスを使おう — 図書館長からのお勧め —	p 1
立教大学図書館FAQ	p 2~3
コミュニティ政策学を 学ぶための10冊	p 4

立教大学図書館FAQ

図書館のカウンターでよく受ける質問にお答えします。

Q 1. 貸出冊数・期間を教えてください。

A 1. 以下のように、それぞれの図書館で借りられる冊数や貸出期間は異なっており、複数の図書館からそれぞれ借りることができます。

〔貸出冊数・期間〕

	本館		人文科学系図書館		社会科学系図書館		自然科学系図書館		新座図書館		新座保存書庫	
学部学生	3冊	2週間	3冊	1週間	3冊	1週間	3冊	1ヶ月	3冊	2週間	3冊	2週間
博士課程前期学生	10冊	1ヶ月	10冊	2ヶ月	20冊	1ヶ月	10冊	2ヶ月	10冊	1ヶ月	10冊	1ヶ月
博士課程後期学生	10冊	1ヶ月	30冊	2ヶ月	40冊	1ヶ月	20冊	3ヶ月	10冊	1ヶ月	10冊	1ヶ月

※ ただし、今年度卒業・修了される方の最終返却期限日は2007年3月5日(月)です。貸出日によっては上記期間より短くなりますので、ご注意ください。

※ メディアライブラリー・新座図書館所蔵のAV資料は、上記とは別枠で2点・2週間まで借りられます。

※ 総合研究センター、学校・社会教育講座資料の貸出冊数・期間については、図書館ホームページにてご確認ください。

●貸出期間の延長について

次に予約が入っていない場合、返却期限内であればカウンターで貸出期間の延長ができます。学生証と資料をお持ちください。なお、自分が借りている資料の返却日は、図書館ホームページのMy Libraryから確認できます。(http://opac.rikkyo.ac.jp/mylibrary) 返却期限を守らないと、貸出が受けられなくなりますのでご注意ください。

●論文用図書長期貸出について

学部4年次生と大学院学生(博士課程前期課程・同 後期課程在籍者)は通常の貸出のほかに、卒業論文や修士論文に論文用図書長期貸出をうけられる館があります。貸出冊数・期間は以下のとおりです。申し込みには所定の用紙に利用者と指導教授の署名・捺印が必要です。詳しい手続きは各カウンターにお尋ねください。

なお、本館・新座図書館・新座保存書庫資料についての申し込み用紙は、図書館ホームページからダウンロードできます。

〔論文用図書貸出冊数・期間〕

所蔵館	本館	人文科学系図書館	新座図書館	新座保存書庫 ※
冊数/期間	(学部学生・大学院学生共通) 6冊/3ヶ月	学部学生 10冊/6ヶ月 大学院学生 30冊/6ヶ月	(学部学生・大学院学生共通) 6冊/3ヶ月	(学部学生・大学院学生共通) 6冊/3ヶ月

※ 本館・新座図書館・新座保存書庫の申込用紙は3館共通です。本館または新座図書館でお申し込みください。

※ 総合研究センターも、学部学生・大学院学生共通6冊・3ヶ月で論文用図書長期貸出を行っています。詳細は総合研究センターにお問い合わせください。

Q 2. 各館の開館時間を教えてください。

A 2. 授業期間中は以下の時間帯で開館しています。

なお、「立教大学図書館開館日程」を各図書館掲示板に掲示し、各館で配布しています。また図書館ホームページ(http://opac.rikkyo.ac.jp)でもお知らせしています。休暇期間中などは時間が異なりますので、そのつど確認してください。

〔授業期間中の開館時間〕

	本館	メディアライブラリー	人文科学系図書館	社会科学系図書館	自然科学系図書館	新座図書館	新座保存書庫★
平日	9:00~21:00	9:00~21:00	9:00~22:30	9:00~22:30	9:00~21:00	9:00~22:00	9:00~17:00
土曜	9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~20:00	9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~20:00	9:00~12:30
日・祝日	13:00~19:00	closed	13:00~19:00	13:00~19:00	closed	13:00~19:00	closed

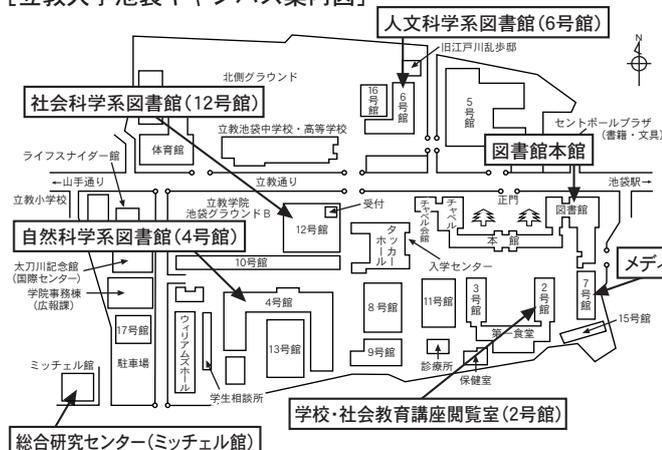
★ 新座保存書庫の利用には事前確認が必要です。くわしくは各館カウンターにてお尋ねください。

※ 総合研究センター、学校・社会教育講座の開室時間は、立教大学ホームページの利用案内で確認するか、直接お問い合わせください。

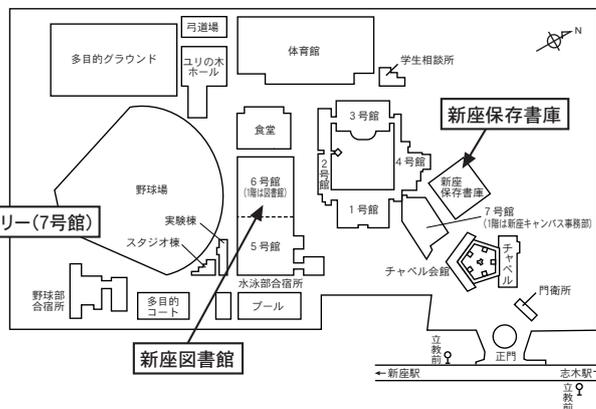
Q 3. 図書の返却はどの図書館でもできますか？

A 3. 返却は全ての図書館でできます。ただし、学校・社会教育講座閲覧室で借りた本は、講座閲覧室で返却してください。また、返却期限を過ぎた資料については、貸し出しを受けた図書館に返却してください。

[立教大学池袋キャンパス案内図]



[立教大学新座キャンパス案内図]



Q 4. 普段利用しているキャンパスとは違うキャンパスの図書館にある本は、直接行かないと利用できませんか？

A 4. 他キャンパスにある図書館及び新座保存書庫にある本は、各図書館の閲覧カウンターに取り寄せて利用することが可能です。(学部学生は図書館本館、新座図書館のみで受け付けています。)取り寄せをした資料は、基本的に翌日に利用することが可能です。ただし、参考図書、雑誌等取り寄せできない資料もありますので、各カウンターでご相談ください。

Q 5. 利用したい資料が立教大学に無いようですが…

A 5. 立教大学にない資料でも、他大学等からコピーや資料を取り寄せたり、他大学等に訪問して資料を閲覧することができます。

図書館ホームページから、以下の①、②などで他大学にある図書や雑誌を検索してみましょう。

他大学等にある資料を利用したい場合は、図書館本館参考室カウンター、新座図書館・各学系図書館の閲覧カウンター(学部学生は図書館本館参考室カウンターおよび新座図書館のみ)で申し込んでください。

① 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム：並列検索 (<http://opac3.rikkyo.ac.jp>)

青山学院大学、國學院大學、学習院大学、東洋大学、法政大学、明治大学、明治学院大学にある図書を検索することが出来ます。これらの大学とは協定を結んでいるため、立教大学の学生・教職員は紹介状がなくても、直接その大学を訪問して利用することが可能です。ただし利用条件が大学によって異なり、利用可能な図書館やキャンパスが限定されていますので、訪問する前に必ず詳細を調べてください。(<http://opac.rikkyo.ac.jp/yamanote/index.html>)。特に、7月と1月は試験期にあたるため、ほとんどの加盟館が利用停止になりますのでご注意ください。

② NACSIS-Webcat(<http://webcat.nii.ac.jp>)

全国の大学図書館にある資料を検索できます。

①の協定大学をのぞく他大学等の資料を直接閲覧したい場合は、原則として立教大学の図書館が作成する紹介状が必要です。遠方で直接見にいけない場合には、資料そのものを立教大学図書館に取り寄せて館内で見ることがきる場合もあります。

2006年4月、コミュニティ福祉学部に、新学科として「コミュニティ政策学科」が開設された。我々の大きな関心事は、山積する地域の社会問題を前に、もはや行政や企業などの単一のアクターでは対応できなくなっている現実に対し、いかにして自治体、NPO/NGO、地域団体などの多様な地域アクターが連携して地域の問題解決を図っていくか、言い換えれば、地域のガバナンスをどのように再構築するかということである。このため、必然的にコミュニティ政策学は学際的な学問になる。このことを理解していただいた上で、ここでは地方自治とNPO（非営利組織）という二つの領域に絞り、初学者が基本的な論点を学ぶ上で参考になる書籍を御紹介することにしよう。

1 地方自治分野

まず、現在の地方自治の仕組みや行政分野別の特徴について、最新のテーマを踏まえ要領よくまとめられているのが①村松岐夫編『テキストブック地方自治』（東洋経済新報社）である。地方自治を広く行政学として体系的に学びたいのなら、②西尾勝『行政学（新版）』（有斐閣）がお薦めである。あるいは、古くなるが大森彌・寄本勝美・新藤宗幸『自治行政要論』（第一法規）も良書である。また、地方自治の分野では「参加」が大きなテーマになってきたが、これについては、市民参加論の泰斗である③篠原一『市民の政治学—討議デモクラシーとは何か』（岩波新書）の市民社会論が参考になる。次に、やや古いが、特に公務員志望者に一読してもらいたいのが、④田村明『都市ヨコハマをつくる—実践的まちづくり手法』（中公新書）である。横浜のまちづくりの背景にどのような「哲学」があったのかが生き生きと書かれている。最後に紹介するのは、⑤西尾勝『行政学の基礎概念』（東京大学出版会）である。本書は多少難解であるが、②を読破した諸君には是非チャレンジしてほしい（10章以降だけでもよい）。書店に行くと、地方自治の概説書は、最近出版されたものだけでも山のようにある。それらに比べ今回紹介した書籍はやや古いものもあるが、時代を超えて読まれるだけの内容を持っている。それは、単に知識の習得や時流を追うものではなく、その背後にある物の見方・考え方を養うのに有益だからである。

2 NPO分野

まず、NPOという言葉の意味やそれが登場した背景について大まかに把握したい場合は、①山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』（ぎょうせい）がよい。次に、NPOのマネジメントに関しては、②スミス・バックリン・アンド・アソシエイツ『みんなのNPO』（海象社）が包括的に内容をカバーしており良書である。田尾雅男『ボランティア組織の経営管理』（有斐閣）も、NPOと一般の企業のマネジメントの違いについて理解できてよい。ボランティアについては、③中田豊一『ボランティア未来論』（参加型開発研究所）やS.エリス（筒井・妻鹿・守本訳）『なぜボランティアか？』（海象社）が良書である。前者は、ボランティアが現場で抱える様々な課題について教えてくれ、後者は、ボランティアの自発性を活かした独特なマネジメントのあり方について説明している。NPOの海外の事例としては、アメリカについては④岡部一明『サンフランシスコ発：社会変革NPO』（御茶の水書房）や須田木綿子『素顔のアメリカNPO』（青木書店）が良い。二つを読み比べると、アメリカNPOの光の部分と影の部分が見えてくるだろう。また、欧州で社会的排除問題に対応して登場してきた社会的企業に関しては、⑤ボルザガ＝ドゥフルニ編（内山・石塚・柳澤訳）『社会的企業』（日本経済評論社）がお薦めである。アメリカとは異なり、協同組合とも結び付いたNPOの発展の仕方が見えてくるだろう。

※文中にあげられた資料はすべて立教大学図書館で所蔵しています。

開館日程等については図書館のホームページでご案内しております。

(<http://opac.rikkyo.ac.jp>)

※その他変更がある場合はその都度、掲示でお知らせします。